



善称寺は永正15年(西暦1518年)、浄土真宗本願寺派の寺として創建されました。空襲で本堂が焼失した時期もありましたが、檀家さまのご尽力のもと立派に再建されました。現住職は23代目です。歴史あるお寺をお預かりする責任を痛感しつつ、いつでもみなさまに広く開かれた、身近な場所としてのお寺づくりを目指しています。

善称寺

ZEN SHO JI

こんなお寺です

和歌山市街の中心部でありながら、閑静な住宅街の中に位置し、静かな環境でゆっくりとお参りしていただける、ちいさなお寺です。境内の墓地は、いつでも清潔であることを心がけ、そこに眠る方々に想いをよせて大切にお守りしております。

お墓のことでお悩みの方へ

- お墓を建てても後継ぎがない
- 無縁墓にならないように
- 子供に負担をかけたくない
- 夫婦ふたりのお墓がほしい
- 合同のお墓には抵抗がある
- 墓じまいを考えている
- 元気なうちにお墓を準備しておきたい
- お墓を引越したい

お墓の悩みは十人十色です。どのようなことでもご相談ください。一緒に解決方法を考えましょう。

宗派不問・管理費不要の永代供養墓

ゆずり葉の碑



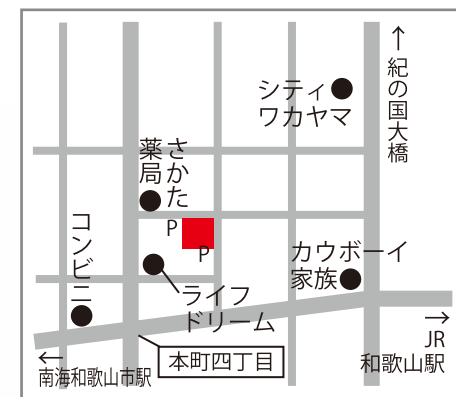
住職 宇治田 真宣

ぜひホームページをご覧ください
料金の説明や申込者さまのお声を掲載中です

<http://zensho-ji.com> **ゆずり葉の碑** 検索

お問い合わせ・資料請求はこちら

和歌山市承認墓地 ぜんしょうじ
宗教法人 **善称寺**
☎073-422-0473



和歌山市本町5丁目32番地
駐車場あり/寺務所火曜休み

善称寺だより

ZEN SHO JI DAYORI

発行元 善称寺
本町五丁目三十二
☎422-0473

2/20 おてらおやつクラブ

説明会を開きました

二月二十日「おてらおやつクラブ説明会」が開かれました。この活動の事務局がある奈良県天理市の善福寺さん(浄土宗)より桂住職が講師で来てくださいました。

参加者は、子ども支援のNPO関係者、子ども食堂の運営者、農家、医療生協、葬儀社、有田川町役場家庭支援総合センター、海南市役所の方など支援の輪が広がる可能性を感じさせる面々でした。

個人参加も多く、カニスカッションの場面では「何かできることをしたい」という思いが伝わり、その場がとても温かな空気に満ちていたと思います。

お寺さんの参加は二名と少ないのが残念でしたが、今後も活動を続ける中で参加寺が増えていくことを願っています。

見えにくい貧困

桂住職の説明の中で、日本の貧困は表面上見えにくいことや、「自分のことは自分でしない」という風潮が増している中で他人に

助けを求めにくい状況であることなど、現状は厳しいことを知らされました。そういえばお墓の相談の中でも「自分のことは自分で」「迷惑をかけたくない」という言葉は多く聞かれます。いつからそういう雰囲気か社会に漂いだしたのでしょうか。貧困問題に取り組むとき、「孤立」の問題も必ずセットになってくるそうです。

あくまでも後方支援

おてらおやつクラブの活動の趣旨は、実は子どもたちにお菓子を食べてもらうことではありません。おやつが定期的に届けられることで、孤独感の緩和につながることも目的です。おやつが届いた時に「ひとりじゃないよ」という気持ちも一緒に届けたいですね。

おやつを送る先は個人宅ではなく、基本的には支援団体です。実際に子どもたちと接する最前線は専門知識を備えた方の方々におまかせし、お寺はその方々を後ろから支える後方支援、言わば「顔の見えない支援」に徹しています。

説明会には、朝日新聞や毎日新聞、それと東京からNHKの記者さんも取材にいられていました。先日の「クローズアップ現代」でも貧困がテーマとなりましたし、それだけ関心が高いということでしょう。

いま日本の子ども六人にひとりが貧困状態にあると言われています。自分には関係がないとは決して言えない状況です。私も子を持つ親として、微力ながらできることを続けて行きたいと思っています。

おてらおやつクラブ

お寺にお供えされるさまざまな「おそなえもの」を、仏さまからの「おさがり」として頂戴し、全国のひとり親家庭を支援する団体との協力の下、経済的に困難な状況にあるご家庭へ「おすそわけ」する活動。おすそわけを通じ、ご家庭と支援団体との関係性の深まりに寄与し、貧困問題の解決への貢献を目指す。



活動に参加しているお寺
560カ寺
連携する支援団体・行政機関
203団体
おやつを楽しみに待つ子どもたち
約6,000人